

米軍無人機 MQ-9 の一時展開に関する住民説明会概要

開催日時	令和4年6月4日(土) 14時00分～15時40分
開催場所	大始良地区学習センター
出席者	市内：30人 ※報道関係者除く
質疑応答の概要	<p>○ 一時展開で、鹿屋基地にとどまらず、周辺の鹿屋の街が基地化するのではないかと懸念。 → 鹿屋の街を米軍基地化することはないと固く約束する。</p> <p>○ 無人機なので敵も撃ち落とそうとするのでは。米兵の事件事故やコロナは教育で抑制できるのか。憲兵によるパトロールが必要ではないか。パイロットの質は信頼できるのか。 → 無人機は情報収集が目的であり戦闘機ではない。我が国の平和のため隙のない情報収集態勢を取ることが必要と私たちは考えている。また、パイロットは当然しっかりとした資格がなければ操縦はできない。パイロットは米軍自身がしっかり確保している。 米側の憲兵のパトロールは重要だと思うが、米側で検討していく。現地連絡所は、ただ連絡を待つだけではなく、街の状況も知ることは重要だと考えており、何ができるか検討している。 コロナ対策は、日本の水準に合わせた形で行う。現在日本の水際対策としては、出国前の72時間以内にPCR検査をするということになっている。対策は時期によって変化していくので、それに合わせて対応していく。</p> <p>○ 事件事故の抑制には憲兵の常駐が必要なものを鹿屋市と約束してほしい。 → 憲兵の配置は約束する。</p> <p>○ 鹿屋航空基地をどのように評価しているか。 → 我が国を取り巻く環境が厳しくなる中で海上自衛隊が鹿屋で活動できることはとても重要なことだと思っている。今回の一時展開が、海上自衛隊の任務に悪影響を及ぼすことがあってはならないと考える。また、米軍と一緒に情報収集活動を行うことで、お互いにWin-Winの関係になればと思っている。海上自衛隊の鹿屋航空基地という位置づけを変えることはまったく考えていない。</p> <p>○ 無人偵察機は潜水艦をどのくらいの精度で探知できるのか。 → MQ-9は赤外線センサーやカメラを積んでおり、海の中ではなく海の上の監視がメインであり海の中を偵察するものではない。海の中であれ上であれ、情報収集能力には課題があり、その強化が必要とされている状況である。</p>